

押し付けない環境配慮と探究活動を探りたい

立命館大学政策科学部 准教授 安藤 悠太

2025年4月から現職

- サステナビリティに関する学際融合研究
- サーキュラーエコノミーに向けた社会システム研究
- 環境教育、科学教育・コミュニケーションの実践



2019年3月 オーストラリア ブリスベンにて

その製品、プラスチック製でないと困りますか？
プラスチック製だからこそ、価値がありますか？



Sydney, Australia / March 2024

False eyelashes



Plastic bag

Tasmanian devil



EU・フランスの歯ブラシ事情（2022年10月）

（安藤他, 廃棄物資源循環学会論文誌, 2024）

プラ規制対象外にもかかわらず様々な環境配慮オプションがある



芸大生にとっての「環境配慮」？

「芸大生は、ごみを生み出してなんぼみたいな課題を出されたりするので、環境問題を悪化させている側の人間ですし...」

- 試してみる **vs** ごみ
- 分別 **vs** 接着

⇒ 環境配慮と制作が
両立できない、らしい



押し付けない環境配慮

Q. ○○って環境に良いんですか？それを選ぶべきですか？

A. 環境に良いとは、他人とか社会とか地球に良い、に過ぎません。
空間軸、時間軸の取り方によって変わります。
その上で自分が納得できるのであれば、ぜひそうしてください。

- その割に、環境配慮には暗黙の良し・正解とされる物事がある。
- そもそも、何事も環境に悪影響を与えないということはない。矛盾の中で、自分の理解（世界観や身体性）の中で納得して選択するもの。
- 社会や未来に良いことをするというのは、自分を拡張する（もしくは外部を内部に取り込む）ことではないか。自分ごと化とはそれ？

⇒ 身体拡張のように意識を拡張するのが環境配慮ではないか、と思った。

共生（ともいき） 東海高校生なので...

伊藤公治郎『凡くら先生奮戦記』 p.128

- 命の尊さに目覚め、己の自立を願う者たちが、互いに慈しみ、支え合い、共に生かし合うこと
- 「自分もよりよく生きたい。それと全く同じように、他の人もよりよく生きてほしいと願う」ということ

『椎尾弁匡選集』 二・三二五

- この一人の全宇宙に拡がるごとく、何人も一切衆生によりて共生す

⇒ 「ともいき」な行動は、どのようにしたら引き起こせるか？

高校での探究活動

「問いを事前に立てていましたが、実際に調べてみたら見当違いだったので、良い研究になるようにストーリーを組み直しました」

問題点

- 科学・工学系の探究が優遇され、人文社会系が軽視されている。
- 研究の真似事としての探究活動が行われている。
(そして、それを指導しきれていない高校教員もいる。)
- 研究と探究を呼び分けるのであれば、失敗をも曝け出す自己開示・表現としての探究活動が望ましいのではないか？